

## 『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成28年度9号

### 医学物理学分野の新設について



東京女子医科大学大学院  
医学研究科医学物理学分野  
教授

西尾 稔治

この度、東京女子医科大学大学院医学研究科に医学物理学分野が新設され、この分野の教授として着任させて頂きました。

がんの放射線治療では、放射線と照射する人体との相互作用による物理反応を切っ掛けに、化学反応、生物反応が連鎖し腫瘍細胞を殺傷します。医学物理学とは基礎物理学を基盤とする、放射線物理学、原子核物理学、原子・分子物理学、放射線計測学、電磁気学、物理数学、情報工学、医学、生物学などの幅広い学問の結集体であり、その知識及び成果を医学へ展開する学術分野が医学物理学分野です。

放射線治療が高度化する一方、その治療装置や技術の品質保証及び管理の項目は、より一層の複雑化を招いています。その結果、治療装置や技術の品質保証及び管理の業務は非常に幅広い領域で多岐に渡っており、現場の医療従事者の負担増になっています。そのため、それらの業務の中心的役割を担う人材が必要となります。また、放射線治療の高精度化には、医学物理学の研究開発が重要です。それ故に、大学や研究所においては革新的な医学物理学研究及び開発、研究者の育成を主体的に実施する人材が必要です。それらの業務を専従で実施するのが医学物理士であり、国内初の医学物理学の専門分野である当大学の医学物理学分野では、臨床現場や大学・研究所で活躍出来る医学物理士の研究教育と人材育成を目指します。

### 都市型がん医療のニーズを探る —患者アンケート調査から見えてきたもの—

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、都市部に在住するがん患者を支える医療人材の養成を目指しています。都市部に生活の場を持ちながら通院するがん患者さんの治療の意向、療養の希望などのニーズを知ることは、充実したサバイバーシップの実現に向けた支援の参考になると考えられます。そこで、2015年9月から2016年1月に、東京女子医大病院、杏林大病院、帝京大病院に通院する外来がん患者を対象としたアンケート調査を行いました。

調査では、疾患に関わる身体的な側面だけでなく、精神的苦痛やがん罹患後の習慣、経済的な不安などをお伺いする内容とすることで、療養生活の充実に向けたニーズをお伺いする内容となっています。この調査では969名の患者さんにご協力いただきました。

そこでは、9割以上の患者さんは治療に対して積極的な意向を示す一方、約6割の患者さんで就労に関する何らかの影響があった（休職や異動・転職など）、約半数が何らかの症状があるが、軽作業など十分できるといった状況をお答えいただきました。

こうした調査により、治療や療養の意向、がんの種類や病期などの病状に加え、住環境や家族関係、経済状態などについて包括的に現状を把握することができました。今後の解析で特性を類型化することで、患者さんひとりひとりのニーズに応じた支援体制を構築するときの貴重な基礎資料となることが期待されます。

この調査にご協力いただいた患者さん、ご家族、関係の皆さんに御礼申し上げます。



帝京大学医学部  
内科学講座 腫瘍内科  
准教授

渡邊 清高



# がんと上手くつきあうために <第2弾> 家族ががんになつたらどう対処する?」を開催して

帝京大学 医療技術学部看護学科 南川 雅子

2016年9月24日土曜日、13時30分から16時まで、帝京大学板橋キャンパス臨床大講堂で開催しました。患者と家族ががんと上手くつきあうためには、診断を受けた時、治療を選択する時、治療が一段落して健康の自己管理を行う時などに、正しい情報を得て、ご自身にとって最良の選択をすることが何より大切です。インターネットが普及した今日、情報を入手することは驚くほど容易になりましたが、それが正しい情報なのかどうか判断することは、患者・家族にとって非常に難しいことと言えるでしょう。

そこでこのシンポジウムでは、4名のシンポジストにご講演いただきました。勝俣範之先生には腫瘍内科医の立場から、がん治療に関する誤解を解いていただき、間違った情報を見分ける方法についてお話しいただきました。緩和ケアチーム専従医の鎮西美栄子先生には、緩和ケアや医療用麻薬に関する正しい知識や、がん性疼痛に対する最新の治療方法についてお話しいただきました。小児看護専門看護師の栗田直央子様からは、3つの小児がんの事例を提示していただき、親が子どもの伴走者となり、治療を継続しながらも、子どもが日常に近い生活を送れるように配慮する必要性についてお話しいただきました。がんサバイバーの重田辰弥様からは、ご自身の体験から、厳しい治療や検査を受けている状況であっても、ポジティブな気持ちでがんと向き合うことの大切さについて教えていただきました。

一般市民、がんサバイバーと家族、大学生・大学院生、医療者、教員など多様な方々にご参加いただき、「がんについて何度か見聞きしてきたが、家族も改めて知る必要のある大切なことだと学んだ」、「家族ががんになった時にどうしたらよいか」ということが分かり、家族と今後どのように関わっていけばよいかイメージがついた」などのご意見をいただきました。本シンポジウムにご参加くださった皆様、ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

ーがんプロフェッショナル養成基盤推進プランー  
連携大学合同市民公開シンポジウム

TEIKYO

## がんと上手くつきあうために <第2弾> 家族ががんになつたら どう対処する?

2016年9月24日(土) 13:30~16:00

帝京大学板橋キャンパス臨床大講堂  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 本部棟2階

◆オープニンググリマーク  
司会 中島恵美子(杏林大学大学院保健学研究科 教授)  
南川雅子(帝京大学医療技術学部看護学科 教授)

【シンポジウム】

- ◆勝俣範之(日本医科大学武藏小杉病院腫瘍内科 教授)  
「家族の誰かががんになつたら 一家族はどんなことを知っておくべきかー」
- ◆大澤岳史(帝京大学医学部緩和医療学講師)  
「がんの痛みと緩和医療 一家族はどんなことを知っておくべきかー」
- ◆栗田直央子(東京女子医科大学病院 小児看護専門看護師)  
「子どもががんになつたら 親はどんなことを知っておくべきかー」
- ◆重田辰弥((株)日本アドバンス代表、美ら島沖縄大使)  
「患者が体験した事、そして家族に望むこと」

◆質疑応答/ディスカッション

◆クロージンググリマーク

一般市民、学生、医療從事者  
多くの方々のご参加をお待ちしています。

●問い合わせ先: 帝京大学板橋キャンパス事務部教務課がんプロ担当  
TEL:03-3964-1211 (内42122) E-mail:ganpro@med.teikyo-u.ac.jp

主催: がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」  
(東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学)

臨床大講堂





第82回東京女子医科大学学会総会を開催しました

東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座 唐澤 久美子

はじめに、座長の唐澤が、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的として実施されている文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の背景と経緯、全国の拠点の概要をご説明した。さらに、患者さん・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域医療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーを養成するわれわれの取り組みの内容についての概略をご説明した。

次いで、駒澤大学の吉川宏起教授より、他施設や連携大学と共同で取り組んでいる駒澤大学でのがん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組みについての紹介があった。がん放射線治療の高度化と適応拡大にとって医学物理士と専門技師は重要な人材である。東京女子医科大学の飯岡由紀子教授よりは、女子医大看護研究科での、多岐にわたる講義や実習を取り入れたがん看護専門看護師養成の取り組みについての紹介があった。帝京大学の有賀悦子教授よりは、小学校高学年へのがん教育を目的として開催している帝京サマースクールについての紹介があり、紹介ビデオが上映された。参加した小学生たちが手術のシミュレーション体験や顕微鏡実習でがんについて関心を持ち理解していく様子が映し出され、がんの早期教育が重要であることが再認識された。最後に、帝京大学の渡邊清高准教授より、連携3大学医学研究科の学生と教員によって行なわれた、都市型がん医療のニーズを探るがん患者のサバイバー調査のアンケート結果が紹介された。都市型と一口にいっても地域により差があることが明らかになり、われわれの取り組みの今後の具体的な方向性が示唆されたように感じた。

**第82回  
東京女子医科大学学会総会**

*The 82nd Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University*

The 82nd Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

**シンポジウムテーマ**  
**がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン**  
**『都市型がん医療連携を  
担う人材の実践的教育』の成果**

■総 会 13:00~13:15

■平成28年度吉岡博人記念総合医学  
研究奨励賞授与式 13:15~13:25

■シンポジウム 13:30~15:40  
座長(東京女子医科大学医学部放射線臨床学 教授・講師主任) 唐澤久美子  
基調講演

■吉川宏起  
(静岡大学 医療放射線科学研究所科 教授)  
がん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組み

■飯岡由紀子  
(東京女子医科大学 看護学部成人看護学 教授)  
がん看護専門看護師養成の取り組み

■有賀悦子  
(帝京大学 総合医療看護学講師 教授)  
小学校高学年へのがん教育  
—帝京サマースクールについて—

■渡邊清高・古瀬純司  
(帝京大学 內科医療講師 離職教員)・(杏林大学 脳瘤内科学講師 教授)  
都市型がん医療の二つの探る  
—がん患者のサバイバー調査から見えてきたもの—

---

**2016年**

**9月24日(土)13:00~15:40**

東京女子医科大学  
**弥生記念講堂**

入場無料・予約不要

■主 催 東京女子医科大学  
■共 催 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン  
■問合せ先 東京女子医科大学 学会室／新宿区西河原町8-1中央校舎1階  
Tel : 代表 03-3353-8111(内線 22314) / Tel & Fax 03-5269-7403  
URL <http://www.twmu.ac.jp/gakkai/>



## 4大学連携合同成果報告会・4大学連携合同市民シンポジウムの開催

平成29年1月14日（土）に4大学連携  
合同成果報告会・4大学連携合同市民シン  
ポジウムを開催いたします。

事業テーマ「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」の目的は、患者さん・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域医療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーを養成することとしています。

第1部4大学連携合同成果報告会では「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」の本拠点における5年間の取り組みについて報告をいたします。

第2部4大学連携合同市民シンポジウムでは「都市部におけるがん医療の課題と方策について」をテーマに、講演、パネルディスカッションを行います。



## 登録・問い合わせ先

|   |  |
|---|--|
|  <p><b>東京女子医科大学</b></p>      |  <p><b>帝京大学</b></p>     |
| <p>がんプロ事務局<br/>         TEL 03-3357-4889<br/>         MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp</p>                             | <p>事務部 教務課 がんプロ担当<br/>         TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122)<br/>         MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp</p> |
|  <p><b>杏林大学</b></p>          |  <p><b>駒澤大學</b></p>     |
| <p>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局<br/>         TEL 0422-47-5512(内線3211)<br/>         MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp</p> | <p>教務部研究推進課研究推進係<br/>         TEL 03-3418-9125<br/>         MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp</p>            |



本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索



<http://top-q4.jp>